第13回総会報告

３年ぶり対面でのフォーラム総会
～２２人参加で活動を交流

６月４日（土）教育会館中会議室で、今年度のぐんま教育文化フォーラム総会が開催されました。

３年ぶりの対面形式の総会には２２人が参加。近年になく多くの方が参加した総会となりました。また、評議員会を兼ねたこともあり、共同研究者の方の参加が多かったことも特徴的でした。

３年ぶりでもあり、初めに自己紹介と合わせて最近の各自の活動紹介を行いました。それだけで１時間半近く。昨年度の総括や決算報告、部会報告、新年度の活動方針と予算案の提案は３０分程となってしまい、全案件を承認して終了という駆け足総会となりました。午後には、これも３年ぶりとなった近現代史ゼミ、内藤真治先生の講演も予定されており、進行の打ち合わせ不足をお詫びします。

参加者のみなさんの活動紹介では、交流の時間がとれませんでしたが、それぞれ現在の教育や文化をめぐる情勢と関連して特徴的な視点が語られました。

発言の中で触れられ、特に共有したい県内の教育の情勢に関わる幾つかを紹介します。今進められている公教育の解体・教育の市場化をすすめるＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）教育改革と関連した発言が２人からありました。

１つは独立法人化し先行している大学改革が、文科省を通り越し、経済産業省の先導で政府直属の機関を通して行われていることです。学術会議任命問題や軍事研究推進、１０兆円ファンドなど露骨な政治介入、利益誘導の危険がある実態です。

もう１つは、私塾が「○○高校（大学）○○人合格」とチラシで大規模宣伝し、塾の経営理念を学校教育に押しつけている実態についてです。これは、塾だけではなく、旧桐生女子高校の跡地を取得した「Ｎ高校」の動向にもつながる問題です。Ｎ高校は、民間企業の角川とＩＴ企業のドワンゴが、沖縄を本校に全国展開を進めている広域通信制高校です。現在、通信制高校に通う生徒は２０万人と言われますが、その多くは全日制や定時制で不登校を経験した生徒です。しかし、Ｎ高校は、中学から直接入学する生徒も多く、民間企業とＩＴ企業の運営で公教育解体後の受け皿としてその動向を注視したい形態の学校です。

また、全国の運動の中で文科省も「１県１校以上構想」を打ち出した夜間中学校が伊勢崎の総合教育センターに開設が決まった事です。現在１５都道府県で４０校が設置されてますが、その大多数の生徒が外国籍の方です。群馬でも大泉での設置が検討されていましたが、伊勢崎での開校となりました。今後、どんな支援ができるのか課題です。

その他、ジェンダー平等の問題、子どもたちの居場所の問題、地域での教育共同の課題など交流を深めたい話題がたくさん語られました。

今後、運営委員会や評議員会などで深めていただけたらと思います。

（文責：中束作蔵）

※「総会の議案書」を同封しましたので、ご意見・ご要望などありましたら、ぜひお寄せください。